

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

**2015年度
震災被災高齢者の孤立予防事業
報告書**

**誰もがすきなところへ行くことができる
「仲間づくり」「体力づくり」「きっかけづくり」**

特定非営利活動法人さんりくWELLNESS

○事業概要および成果

本事業は、高齢者の孤立予防・解消に向け、3つの事業を町内支援組織の協働により実施した。その結果、孤立予防に向けた場の構築ができ、外出意欲の向上にもつながった。今年度、本事業の有用性と可能性が把握でき、次年度以降、仕組み化に向けた取り組みを行っていく。

閉じこもり
傾向の
高齢者

双方が
対象

潜在的に
つながりを
求める
高齢者

実施内容

おでかけ支援

(移動・外出・ネットワーク構築支援)

13カ所 **219**回実施
のべ**658**名利用

お茶っこサロン

(つながりづくり支援)

3か所 **15**回実施
のべ**83**名参加

体操教室

(筋力向上支援)

10カ所 **41**回実施
のべ**206**名参加

町内支援組織の協働

構築できた「場」

ヒアリング調査結果から

- ・移動困難者の生活機能の改善の場の構築
- ・団地内外での交流の場の構築
- ・生活におけるバリア軽減

生まれた成果

- ・高齢者のコミュニティ醸成
- ・高齢者の外出意欲の向上
- ・要支援者を含む団地内でのささえあい
- ・町内支援組織の協働による支援体制

今後に向けて

- ・有償化による実施可能性評価
(特に要支援者利用の担保)
 - ・他事業・制度との連動
- 町内組織とのさらなる連携による継続的な実施にむけた「仕組み化」へ

○事業の背景

2016年現在、岩手県上閉伊郡大槌町では町民12,365人のうち、3,031人が仮設住宅での生活を余儀なくされています。未だ、2100戸ある仮設住宅の75%近く（1551戸）が利用されている状況です。町全体の人口構造を見ると65歳以上の高齢者は4千人余、高齢化率は35%近くとなっています。少子化の影響、進学や就職で町外への転出が多く、少ない若い世代が高齢者を支える状況になっています。

仮設住宅集約化計画を比較すると、近隣の釜石市や大船渡市と比較し、仮設住宅の大規模集約のタイミングが1年以上開きがあり、県内においても最も遅くまで仮設住宅が残ることが予想されています。

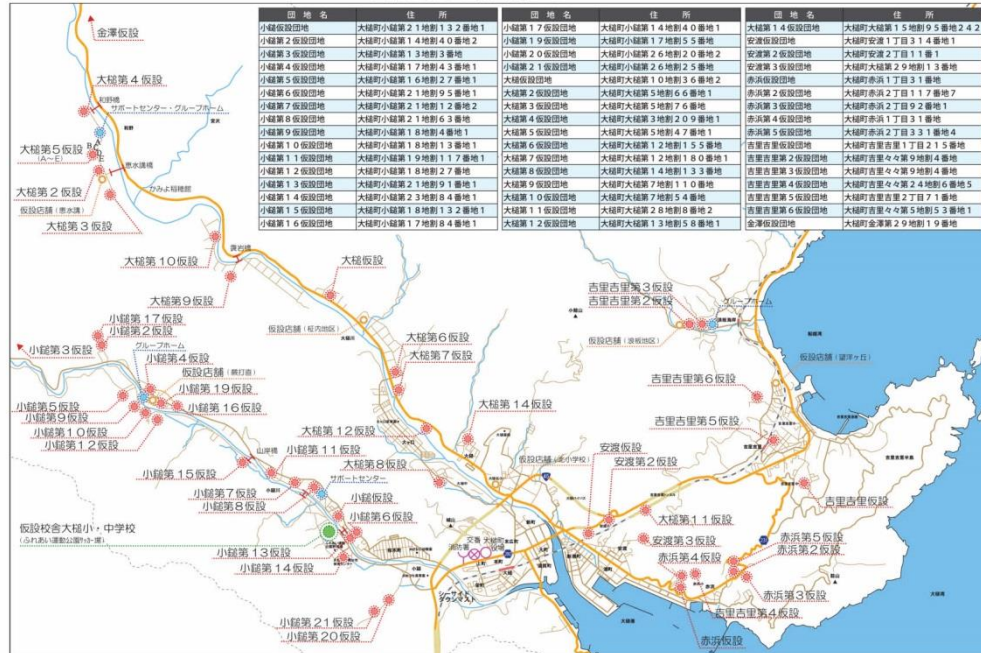
一方、災害公営住宅の入居も順次開始されており、特に自治会のキーパーソンや若者等、担い手として期待される住民ほど、先に仮設住宅を卒業する傾向もあることから、仮設団地内のコミュニティの希薄化も課題となっています。

このことから、応急仮設団地の「コミュニティの希薄化」が進む中で、「要支援者の割合が高い」状況がより一層進んでいくことが予想されます。

大槌町応急仮設住宅団地集約計画

地区名	団地名	設置戸数	敷地属性	集約時期							
				H27年度 H28.3末	H28年度			H29年度		H30年度	
				H28.9末	H29.3末	H29.9末	H30.3末	H30.9末	H31.3末		
赤浜	赤浜	23	民有	→	→	→	→	→	→		
	赤浜2	42	民有	→	→	→	→	→	→		
	赤浜3	22	民有	→	→	→	→	→	→		
	赤浜4	14	民有	→	→	→	→	→	→		
	赤浜5	12	民有	→	→	→	→	→	→		
	吉里吉里4	32	民有	→	→	→	→	→	→		
	入居戸数推移見込			134	134	110	82	24	7	6	
安渡	安渡	13	民有	→	→	→	→	→	→		
	安渡2	34	公有	→	→	→	→	→	→		
	安渡3	11	公有	→	→	→	→	→	→		
	大槌11	7	民有	→	→	→	→	→	→		
	入居戸数推移見込			47	47	40	27	18	15	9	
大槌東	大槌	44	民有	→	→	→	→	→	→		
	大槌6	46	民有	→	→	→	→	→	→		
	大槌7	59	民有	→	→	→	→	→	→		
	大槌8	27	民有	→	→	→	→	→	→		
	大槌9	62	民有	→	→	→	→	→	→		
	大槌10	46	民有	→	→	→	→	→	→		
	大槌12	18	民有	→	→	→	→	→	→		
	大槌14	12	民有	→	→	→	→	→	→		
		入居戸数推移見込			160	157	139	108	74	40	27
	大槌西	大槌2	40	民有	→	→	→	→	→	→	
		大槌3A	67	民有	→	→	→	→	→	→	
		大槌3B	28	民有	→	→	→	→	→	→	
大槌4		34	民有	→	→	→	→	→	→		
大槌5A		71	民有	→	→	→	→	→	→		
大槌5B		41	民有	→	→	→	→	→	→		
大槌5C		54	民有	→	→	→	→	→	→		
大槌5D		33	民有	→	→	→	→	→	→		
大槌5E		15	民有	→	→	→	→	→	→		
金澤		54	公有	→	→	→	→	→	→		
		入居戸数推移見込			196	194	175	150	123	62	52
吉里吉里	吉里吉里	80	公有	→	→	→	→	→	→		
	吉里吉里5	25	民有	→	→	→	→	→	→		
	吉里吉里6	36	民有	→	→	→	→	→	→		
		入居戸数推移見込			90	87	83	51	19	11	10
浪板	吉里吉里2	101	民有	→	→	→	→	→	→		
	吉里吉里3	48	民有	→	→	→	→	→	→		
		入居戸数推移見込			87	79	74	41	19	13	10
小釜東	小釜	92	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜6	13	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜7	56	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜8	120	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜11	18	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜13	24	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜14	30	公有	→	→	→	→	→	→		
	小釜15	31	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜20	40	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜21	33	民有	→	→	→	→	→	→		
		入居戸数推移見込			302	278	259	198	152	44	25
小釜西	小釜2	22	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜3	12	公有	→	→	→	→	→	→		
	小釜4	64	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜5A	60	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜5B	36	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜9	17	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜10	26	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜12	60	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜16	19	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜17	26	民有	→	→	→	→	→	→		
	小釜19	50	民有	→	→	→	→	→	→		
	入居戸数推移見込			241	228	217	171	137	50	36	

大槌町応急仮 設住宅マップ

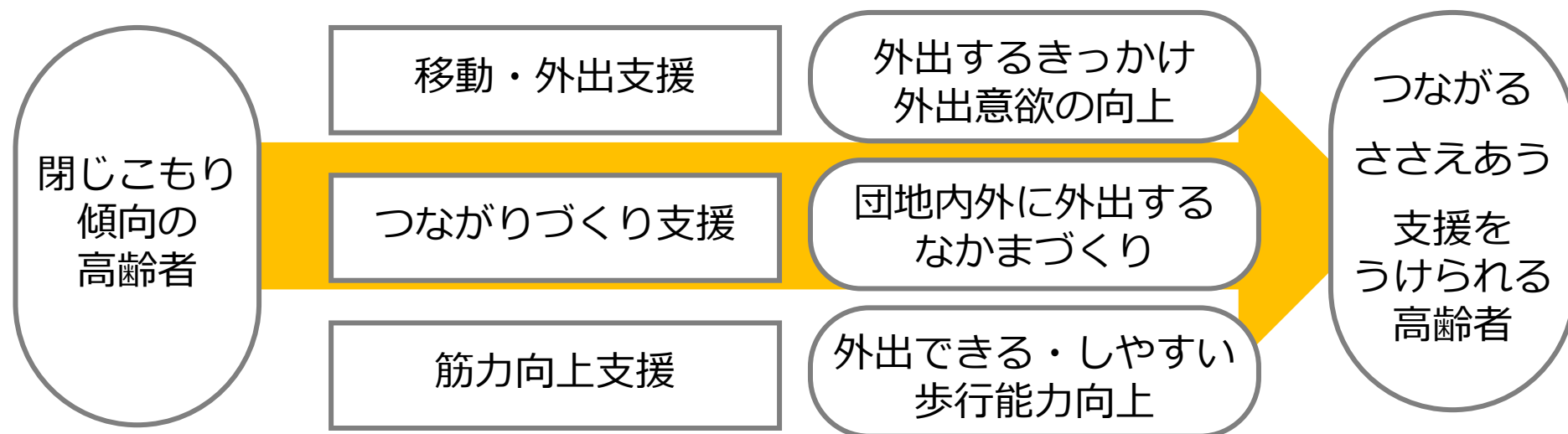


○事業の目的

本事業は、大槌町内の仮設住宅及び災害公営住宅にお住いで外出が困難な高齢者に対し、閉じこもりを予防し、高齢者の生活圏拡大を目的に、自宅から町内への外出を支援します。

さらに、仮設住宅内でのお茶っこによるコミュニティ形成支援や、筋力向上のための運動教室を開催することによって、孤立予防に向けた「つながりづくり」と外出のための「脚づくり」を行います。

このことによって、外出困難な高齢者が前向きに社会とつながるための、きっかけ、こころ、体力を養うことで、前向きな生活を送ることができる基盤づくりをおこなうのが本事業の目的です。



○事業の実施内容①【おでかけ支援サービス】

○目的・内容

大槌町内の仮設住宅及び災害公営住宅にお住いで、一般の交通機関や自家用自動車での外出が困難な高齢者に対し、閉じこもりを予防し、高齢者の生活圏拡大を目的に、自宅から町内への外出を支援した。買い物においては、頼まれたものを買ってくる代行ではなく、移動の足のみ代行し、本人が「社会と繋がる」機会を創出した。

○実施期間

平成27年4月24日～平成28年3月31日

全219回実施

○対象者

65歳以上の方で、一般の交通機関や自家用自動車での外出が困難な方。概ね、バスでの乗り降り、タクシーでの移動が困難な方を対象とした。

※社会福祉協議会の皆さん、復興支援員事業の皆さんにご協力をいただき、対象者のリストアップ、お声かけ、フォローアップを実施しました。

○実施場所

・仮設住宅11か所

小槌第2、17仮設団地、吉里吉里第6仮設団地、大槌仮設団地、小槌第4、16、19仮設団地、赤浜・赤浜第4仮設団地、大槌第9仮設団地、赤浜第2、3仮設団地、大槌第3仮設団地、大槌第10仮設団地、小槌第7仮設団地、大槌第12仮設団地

・災害公営住宅1か所

県営屋敷前災害公営住宅

・在宅1か所

沢山地区

○利用者

のべ658名利用



特に交通アクセスの悪い仮設団地を発着点に活動を実施



行き先は、マストが主であり、食品や日用品の買い物を行う。自分で選ぶ楽しさを実感



この利用者の方は、引きこもりで今回の外出は2週間ぶりの入浴へ。社会福祉協議会やサポートセンターと連携した支援体制。

○事業の実施内容②【お茶っこサロン】

○目的・内容

各仮設団地に付随する集会所を活用し、出発前の団らん若しくは、買い物帰りの住民が買ってきたものを持ち寄って、語らう時間をつくります。それによって独居高齢者の安否確認、孤立防止、栄養サポート、地域コミュニティへの参加、醸成を図った。

○開催日時

平成27年7月24日～平成28年3月30日

全15回開催

○対象者

対象者との関係性づくりを目的として、お出かけ支援サービス利用者を中心に該当仮設団地にお住まいの方対象しました。

※大槌町福祉課・大槌町社協：対象者の生活面での変化や困りごと、体調の変化など窓口となっていた。

※つどい：町内の被災者支援、コミュニティ支援を行なっているため情報発信及びサロンの運営アドバイスをいただいた。

○実施場所

・仮設団地

小釜第2、17仮設団地、吉里吉里第6仮設団地、大槌第3仮設団地

○参加者

のべ83名利用



外出の機会創出と支えあいに向けた関係性構築のための「お茶っこ」。団地内の住民さんの他、団地外の住民さんなど広いネットワークづくりへ。



つくってもらって食べるだけではなく、自分たちでつくることによって、主体的な参加意識を醸成する。



手芸など、さまざまなテーマ設定を行うことで、これまでのサロン活動に参加していない住民さんの参加につなげる。

○事業の実施内容③【体操教室】

○目的・内容

各仮設団地に付随する集会所を活用し、外出が困難な高齢者とその付近住民を対象に、外出することができる基礎体力作りのストレッチ、筋力トレーニングを行なった。同時に脳トレ等の介護予防プログラムや関係性構築メニューも行い、筋力の向上とっしょに外出のきっかけづくりも実施した。

○実施期間

平成27年10月2日～平成28年3月31日
全41回開催

○対象者

おおむね65歳以上の外出支援対象者と当該団地住民
※大槌町福祉課・大槌町社協：対象者の生活面での変化や困りごと、体調の変化など窓口となり必要な支援への窓口となっていた

○実施場所

・仮設住宅

吉里吉里第2仮設団地、北田仮設団地、大槌第3仮設団地、
まさない仮設団地、みかづき仮設団地、吉里吉里仮設団地、
ほろいわ仮設団地、小槌第5仮設団地、小槌第7仮設団地、
堤が丘仮設団地

○利用者

のべ206名参加



まずはストレッチで、痛みの予防につなげる。



メインは筋力トレーニング。局筋力の向上をはかり、歩行能力の向上、日常生活機能の向上をはかる。



認知症予防体操やメンバーの関係性を構築する運動なども用いて、住民さん同士のつながりづくりも行っていく。

○事業利用者の特性【ヒアリング調査結果より①】

○対象

11月24日、26日、27日に、おでかけ支援サービスの利用者を対象にヒアリング調査を実施。

○対象者の基本属性

性別および年代	男性		女性		計	
	人数	%	人数	%	人数	%
60代		0%	4	13%	4	12%
70代	1	50%	11	34%	12	35%
80代	1	50%	14	44%	15	44%
90代		0%	3	9%	3	9%
計	2		32		34	

現在の居住住居形態	人数	%
応急仮設住宅	12	35%
災害公営住宅(集合)	7	21%
災害公営住宅(長屋)	5	15%
持ち家	8	24%
親族・知人宅	2	6%

世帯での自家用車の保有	人数	%
自家用車あり	13	38%
自家用車なし	21	62%

世帯構成	自家用車あり		自家用車なし		計	
	人数	%	人数	%	人数	%
単身世帯		0%	14	67%	14	41%
夫婦のみの世帯	2	15%	4	19%	6	18%
二世帯世帯(親と子)	10	77%	3	14%	13	38%
三世帯世帯(親と子と孫)	1	8%	0%		1	3%

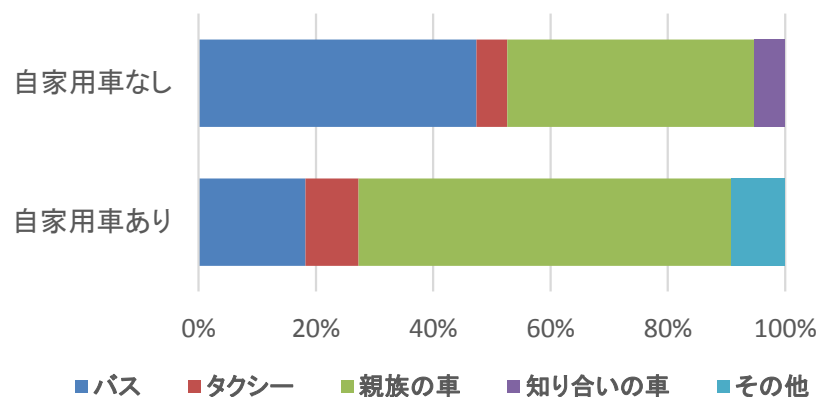
○参加者の特性

・参加者のうち、世帯で自家用車を保有していると回答した割合は38%

・参加者は全員、運転免許を所有しておらず、自家用車を運転することはできない。

・日常的なマスト等への移動に関しては、世帯に自家用車のある世帯は、親族の車での移動が多く、自家用車のない世帯に関しては、バスでの移動が主となっている。

支援以外でマストに行く場合の移動手段



マストへ買い物に行く際の の日常の移動手段	自家用車あり		自家用車なし		計	
	人数	%	人数	%	人数	%
バス	2	18%	9	43%	11	32%
タクシー	1	9%	1	5%	2	6%
親族の車	7	64%	8	38%	15	44%
知り合いの車		0%	1	5%	1	3%
その他	1	9%	0%		1	3%

○利用者の移動動向とコミュニティへの寄与【ヒアリング調査結果より②】

○日常の買い物の状況

- ・自家用車の有無により、おでかけ支援以外でのマストの利用状況、生協の宅配サービス、移動販売サービスの利用頻度に大きな差はない。
- ・マストへ行く頻度は、半数以上は週1回未満となっており、生鮮食料品を常にマストで購入している割合は低いことが予想される。

おでかけ支援以外のマストの利用頻度	自家用車あり		自家用車なし		計	
	人数	%	人数	%	人数	%
週に2回以上	2	15%	3	14%	5	15%
週に1回	3	23%	6	29%	9	26%
2,3週間に1回	4	31%	6	29%	10	29%
月に1回	1	8%	1	5%	2	6%
数ヶ月に1回		0%	1	5%	1	3%
支援以外では行かない	3	23%	4	19%	7	21%

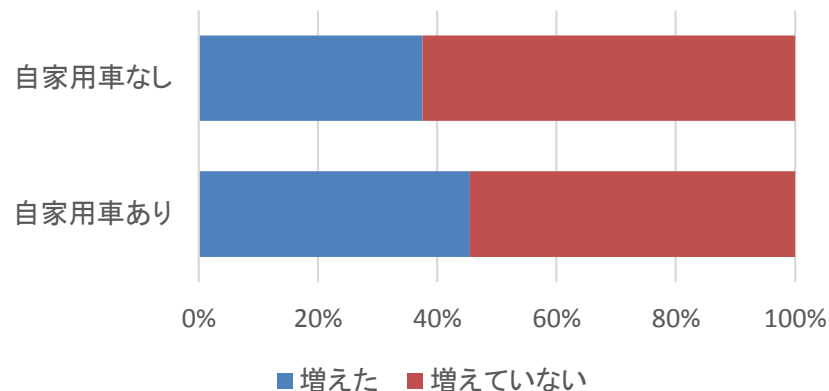
生協の宅配サービスの利用状況	自家用車あり		自家用車なし		計	
	人数	%	人数	%	人数	%
利用している	3	23%	6	29%	9	26%
利用していない	10	77%	15	71%	25	74%

移動販売サービスの利用状況	自家用車あり		自家用車なし		計	
	人数	%	人数	%	人数	%
利用している	6	46%	10	48%	16	47%
来ているが利用していない	1	8%	4	19%	5	15%
来ていない	6	46%	7	33%	13	38%

○コミュニティ醸成への寄与

- ・おでかけ支援をきっかけにして、挨拶や会話をする人が増えたかどうかについての質問を行った。
- ・自家用車の有無にかかわらず、本事業を通して、4割程度の利用者が、挨拶や会話をおこなう人が増えたと回答しており、住民間のつながりづくりのきっかけになったことがうかがえる。

お出かけ支援をきっかけに挨拶や会話をする人が増えたか



支援をきっかけに挨拶や会話をする人が増えたか？	自家用車あり		自家用車なし		計	
	人数	%	人数	%	人数	%
増えた	5	45%	6	38%	11	41%
増えていない	6	55%	10	63%	16	59%

○利用者ニーズ【ヒアリング調査結果より③】

○おでかけ支援の優先度

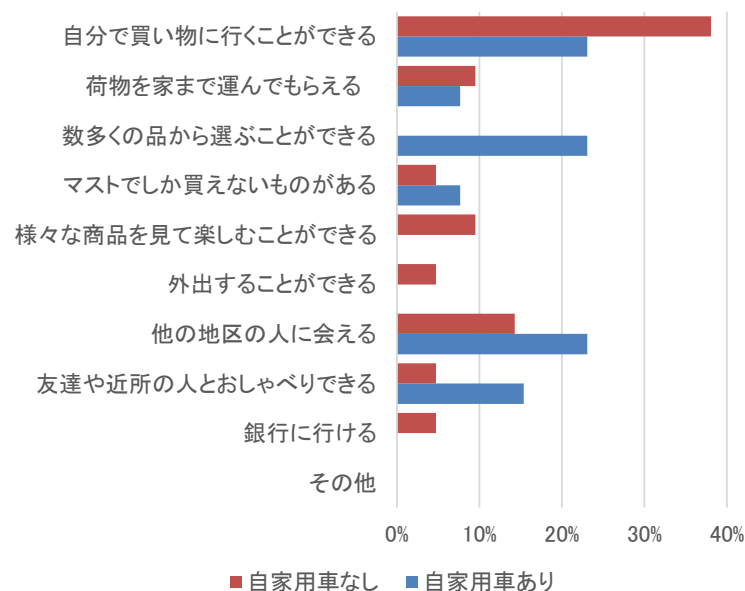
・おでかけ支援を使う理由について、上位3つまでを選択制で質問した。

- ・優先度の最上位は、自家用車なしでは、「自分で買い物に行くことができる」であった。
- ・優先度の3位までの合計を見ると、自家用車ありでは、「友達や近所の人とおしゃべりができる」、自家用車なしでは、「自分で買い物に行くことができる」が高く、次いで、「友達や近所の人とおしゃべりができる」となっている。
- ・このことから、特に交通弱者への移動支援であるが、同時にコミュニティの醸成につながっていることがうかがえる。

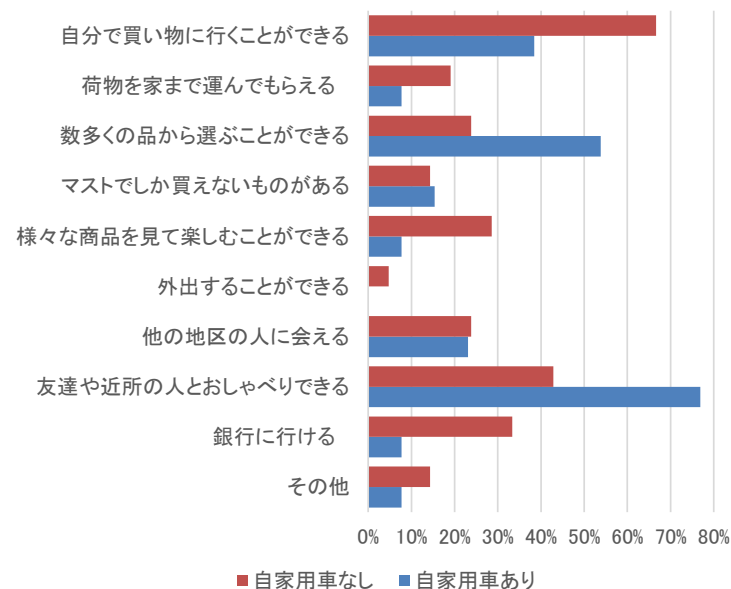
おでかけ支援サービスの利用優先度(最上位)	自家用車あり		自家用車なし		計	
	人数	%	人数	%	人数	%
自分で買い物に行くことができる	3	23%	8	38%	11	32%
荷物を家まで運んでもらえる	1	8%	2	10%	3	9%
数多くの品から選ぶことができる	3	23%		0%	3	9%
マストでしか買えないものがある	1	8%	1	5%	2	6%
様々な商品を見て楽しむことができる		0%	2	10%	2	6%
外出することができる		0%	1	5%	1	3%
他の地区の人に出会える	3	23%	3	14%	6	18%
友達や近所の人とおしゃべりできる	2	15%	1	5%	3	9%
銀行に行ける		0%	1	5%	1	3%
その他		0%		0%		0%

おでかけ支援サービスの利用優先度(上位3件)	自家用車あり		自家用車なし		計	
	人数	%	人数	%	人数	%
自分で買い物に行くことができる	5	38%	14	67%	19	56%
荷物を家まで運んでもらえる	1	8%	4	19%	5	15%
数多くの品から選ぶことができる	7	54%	5	24%	12	35%
マストでしか買えないものがある	2	15%	3	14%	5	15%
様々な商品を見て楽しむことができる	1	8%	6	29%	7	21%
外出することができる		0%	1	5%	1	3%
他の地区の人に出会える	3	23%	5	24%	8	24%
友達や近所の人とおしゃべりできる	10	77%	9	43%	19	56%
銀行に行ける	1	8%	7	33%	8	24%
その他	1	8%	3	14%	4	12%

おでかけ支援サービスの利用優先度(第1位)



おでかけ支援サービスの利用優先度(上位3件)

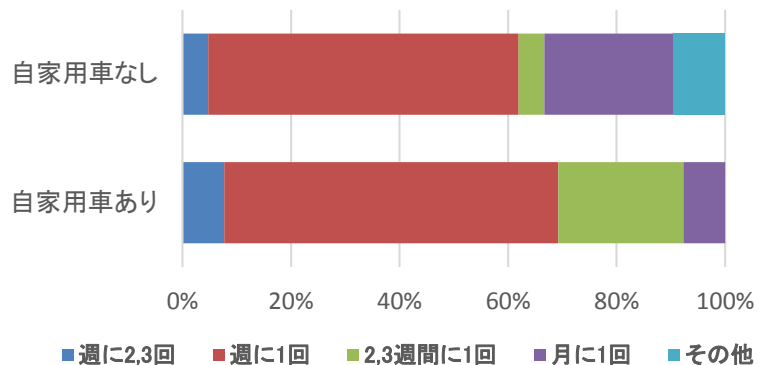


○今後の利用意向【ヒアリング調査結果より④】

○利用意向および有償化への考え方

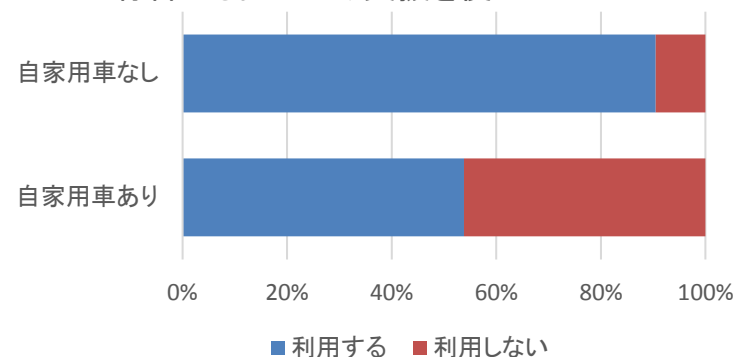
- ・利用者へ、今後、希望する利用頻度を訪ねると、半数以上が「週1回」と回答している。
- ・また、自家用車を持たない利用者は、9割が有償でもおでかけ支援サービスを利用したいと回答し、また自家用車がある利用者でも半数が同様に回答した。
- ・有料で使う場合の適正な利用料に関しては、自家用車なしでは500円未満が8割を超えた一方、自家用車のある利用者は800円以上と回答した回答者もいる。このことは、自家用車の有無と世帯収入の関係性も考えられるが、利用ニーズにおいても自家用車のある利用者は、つながりや会話へのニーズが高く、自家用車なしは、日常生活機能としての支援ニーズが高いことが起因している可能性も示唆される。

希望するおでかけ支援の頻度



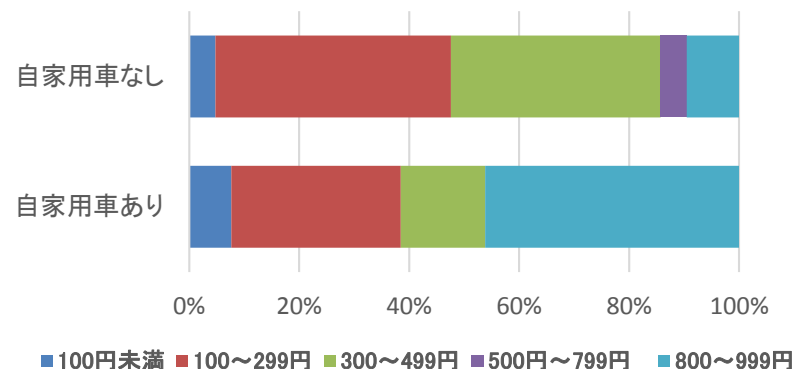
希望するおでかけ支援の頻度	自家用車あり		自家用車なし		計	
	人数	%	人数	%	人数	%
週に2,3回	1	8%	1	5%	2	6%
週に1回	8	62%	12	57%	20	59%
2,3週間に1回	3	23%	1	5%	4	12%
月に1回	1	8%	5	24%	6	18%
その他	0	0%	2	10%	2	6%

有料でもおでかけ支援を使いたい



おでかけ支援を有料でも利用したいか	自家用車あり		自家用車なし		計	
	人数	%	人数	%	人数	%
利用する	7	54%	19	90%	26	76%
利用しない	6	46%	2	10%	8	24%

有料で使う場合の適正だと思う費用



有料で使う場合の適正だと思う費用	自家用車あり		自家用車なし		計	
	人数	%	人数	%	人数	%
100円未満	1	8%	1	5%	2	6%
100~299円	4	31%	9	43%	13	38%
300~499円	2	15%	8	38%	10	29%
500円~799円	0	0%	1	5%	1	3%
800~999円	6	46%	2	10%	8	24%

○自由回答から見る事業の成果【ヒアリング調査結果より⑤】

○つながりの場の構築（社会参加促進）

- センターコートで色々な人に会えた。
- 皆で来てお話できて嬉しかった
- 2号棟の人に会えた
- 前に住んでいたところの人に会えた
- 他の地区の人(元同僚)に震災後初めて会えた
- 仮設で一緒だった人や昔の同僚に会える
- おしゃべりできる
- 他の地区の人に会えた
- 何十年前の友達に会って、今住んでいる場所を聞いた
- みんなで買い物に行くのが楽しみ
- 一人であるよりみんなでいたほうが楽しい
- 皆でお昼ご飯を食べるのが楽しみ
- 友達と一緒に買い物できるのが一番楽しい
- 買って来たカットフルーツをお昼にみんなにあげて食べた
- しばらくぶりで会う楽しみ（マストの場合）
- みなさんとおしゃべりできたこと
- おしゃべりが楽しい
- センターコートで集まる時とかのおしゃべりが楽しい
- 車中のおしゃべりが楽しい
- 同級生に会える
- 買い物に行く車の中が楽しい
- 皆で集まって点呼の確認とかわいわい行く
- 談話室が皆の憩いの場所でいい頭の刺激になる
- 前に近所だった人に会える
- 仮設にいたときの友達に会えた
- みんなと会えたこと
- 昔仲良かった人に3人も会えた

○自分で選ぶ楽しさの創出（社会参加促進）

- 野菜が買えた
- 移動販売では買えないものを買える
- 息子に作る弁当の材料を買える
- 新鮮な野菜や魚を安心して買えた
- 自分で行かないと買えないもの（肉）を買えた
- 今晚つくるものを考えて楽しい
- 魚、花、野菜を買えて良かった
- 自分で買うことができた
- 品物を見る楽しみがある
- 100円均一などのお店で展示物を見る楽しみ
- 周りの人の買い物を見ながら買い物する雰囲気楽しい
- 自分で色々な物から選べる楽しみ

○重さや時間など物理的バリアの軽減

- バスでの移動と異なり、たくさんの量買えた。
- お米を買えてよかった
- 重いもの買える
- 荷物を家まで運んでくれて本当に優しいと思う
- 荷物を家まで持って来てもらえて助かる
- バスの時間を気にせず買えて嬉しい
- 平日は娘に頼めない銀行に行ける
- バスより段差が低く乗りやすかった
- ゆっくり買い物をできた

○支援者とのつながり

- 支援者についてきてもらって証明写真を撮ることができた。
- 支援者さんに会ってホッとした
- 荷物を運んでもらえてよかった
- 薬を買うために融通を利かせて薬王堂に寄ってもらえた
- 支援者さんとも色んな会話できて嬉しい